

# 令和2年度 第5回「防災スペシャリスト養成」企画検討会

## 議事概要

### 1. 検討会の概要

日 時：令和3年3月18日（木）15：00～17：00

場 所：中央合同庁舎8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：林座長、黒田委員、重川委員、中林委員（以下WEBにて出席）、井ノ口委員  
岩田委員、牛山委員、大原委員、鍵屋委員、国崎委員、田村委員、丸谷委員  
木村オブザーバー

内閣府：内田審議官、宮木参事官、石澤参事官補佐

### 2. 議事概要

#### (1) 防災スペシャリスト養成研修の実施状況の報告

##### (研修修了率の向上について)

- オンライン研修受講者の修了率を上げるためには、オンデマンド講義動画の視聴が未完了の者に対してリマインドしてはどうか。

##### (人的ネットワーク形成の取り組みについて)

- 質問に丁寧に答えたことと、ディスカッションの時間をできるだけ確保したことが人的ネットワークの構築に効果があったのではないか。
- 2期では、オンデマンド講義開始段階でオープニング交流会を行い、また、リアルタイム研修の当日はテーマ別の情報交換会を実施したが、受講者の評価は1期とあまり変わらなかった。

#### (2) 今後の防災スペシャリスト養成研修のあり方

##### (職位に応じた受講について)

- 受講者の職位に応じた単元の複線化について、職位で細かく分けるのではなく、首長や首長を補佐する危機管理監や防災監レベルの職員とそれ以外の一般係員や課長級の職員の大きく2つに分ける程度でよいのではないか。
- 職位別にコースを分けるのは難しいとしても、受講者の職位に応じたグループ分けの中でテーマについて検討したり、職位に応じて講義を選択できるようにする方法はあるのではないか。

### (受講管理の仕掛け)

- オンデマンド講義の受講率を上げるためには、受講状況を課長にフィードバックするなど、強制力が働くような仕組みにしてはどうか。
- オンデマンド講義が受けっぱなしとなったり、脱落者が出ないようにするために、簡単なレポートの提出を求めたり、受講結果や進捗状況を組織内の上長が確認できるようにするなどフィードバックの仕掛けが必要ではないか。

### (オンデマンド講義について)

- 有明の丘研修のオンデマンド講義のテキストは、他コースの受講者でも閲覧できるようにするなど、開放する方向で検討してはどうか。
- 講義内容に事例や現場の話を反映させ充実させる方法の一つとして、講義を担当する講師が、講義に関するコメントや経験談などを追加してもらうとよいのではないか。
- 首長インタビュー等は、総務省が豊富に映像データを保有しているので、借りてはどうか。また、応援職員の心構えについて学ぶことも必要ではないか。

### (有明の丘研修について)

- 地域防災計画、地区防災計画、BCP の計画策定など、受講者ニーズは高いものの十分に講義できていない内容は、派生したコースのようなものとして用意し試行してみてもどうか。
- 対面研修からオンライン研修に変わったことで遠隔地の参加が増えているかどうかなど、どの自治体が参加しているのか調査し、特徴を明らかにした方がよい。

### (地域研修について)

- 内閣府職員が実施している地域研修の講義内容について、有明の丘研修との齟齬がないよう整合性は確保すべき。

### (研修指導要領について)

- 研修指導要領は、現在、有明の丘研修のコースの単元で学ぶ内容を整理したものになっているが、地方自治体職員が学ぶべき全ての内容を体系的に整理したものに昇華させるべきではないか。最終的には内閣府で担保すべき。

### (人的ネットワークについて)

- 人的ネットワークの形成にあたり、実施している片方向や双方向の取り組みの特性を整理した上で、防災スペシャリスト養成研修で目指す人的ネットワークについて、戦略的にその構築について考えてみてはどうか。
- 人的ネットワークに関する評価が1期と2期で変化した具体要因について分析・整

理してみてもどうか。

- オンラインにおける人的ネットワークの構築の仕掛けとして、アイスブレイクの時間を設け、受講者個人の実務経歴や研修への期待を個人ワークで記述したうえでグループに分かれて参加者間で話し合う時間を作るとよいのではないか。

#### (e ラーニングについて)

- eラーニングの今後に向けて、来年度の検討事項として、「①受講対象者について、行政職員のみ、医療保健福祉の専門家も受け入れる」、「②受講者の管理について、自治体番号、職員番号での管理の可能性とコストについて」「③コンテンツの著作権の管理について」ではないか。
- eラーニングの検討を、防災基本計画に準拠した我が国の災害対応の標準化を推進するきっかけとしてはどうか。

#### (e ラーニングの対象テーマ)

- 残りの4テーマについても、WBS(ワークブレイクストラクチャー)とWP(ワークパッケージ)の関係性を維持したコンテンツ作りが必要不可欠である。
- 防災 SP 養成 eラーニングの将来的なテーマに、物資や緊急輸送、医療救護等に関する業務も視野にいれてはどうか。
- 現在は、市町村に役立つ業務をテーマに選定しているが、物資や医療救護といった都道府県が中心になる業務など市町村以外の主体が中心になる業務も、次の段階で整備が必要と考える。

#### (e ラーニングのシステム)

- eラーニングシステムは、WBS の状況が一覧化され、受講者が全体像を把握しながら、関係する場所を選択して受講できるものがよい。そうしたシステムの構築または設計が必要ではないか。
- 応援職員や災害対応を行う職員がその場ですぐ見られるeラーニングとして、発災から初期の対応に絞られたもので、いつでも見ることができるものがよいのではないか。
- 災害時に応援職員が被災地に向かう際に、手間をかけずに学習が開始でき、スマホなどで手軽に学習できるシステムがよいのではないか。

### (3) 令和2年度企画検討会報告書(素案)について

- 令和2年度企画検討会報告書(素案)については、委員意見を収集したうえで整理すること、最終的には座長に一任し、確定いただくことを確認した。